

I 調査結果の概要

1 平成19年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類で1万7,230ha、球根類で564ha、鉢ものの類で2,047ha、花壇用苗ものの類で1,685haとなっており、前年産に比べてそれぞれ210ha（前年産対比1%）、18ha（同3%）、45ha（同2%）、15ha（同1%）減少した。

出荷量は、切り花類で48億2,900万本、鉢ものの類で2億9,380万鉢、花壇用苗ものの類で7億9,210万本となっており、前年産に比べてそれぞれ1億500万本（同2%）、720万鉢（同2%）、1,160万本（同1%）減少したものの、球根類では1億6,770万球と、前年産に比べて150万球（同1%）増加した。

表1 平成19年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量

類別	作付(収穫)面積	出荷量	前年産対比	
			作付(収穫)面積	出荷量
切り花類	17 230 ha	482 900 万本(球・鉢)	99 %	98 %
球根類	564 ha	16 770 万球	97 %	101 %
鉢ものの類	2 047 ha	29 380 万鉢	98 %	98 %
花壇用苗ものの類	1 685 ha	79 210 万本	99 %	99 %

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万7,230haで、生産者の高齢化に伴う労働力事情等により前年産に比べて210ha（同1%）減少した。品目別にみると、トルコギキョウ、切り葉、切り枝が増加したが、スターチス、宿根かすみそう、カーネーション等が減少した。

出荷量は48億2,900万本で、前年産に比べて1億500万本（同2%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、きくが38%を占め、次いでカーネーションが8%、ばらが7%となっており、この3品目で全体の5割以上を占めている。

図1 切り花類の品目別出荷量割合

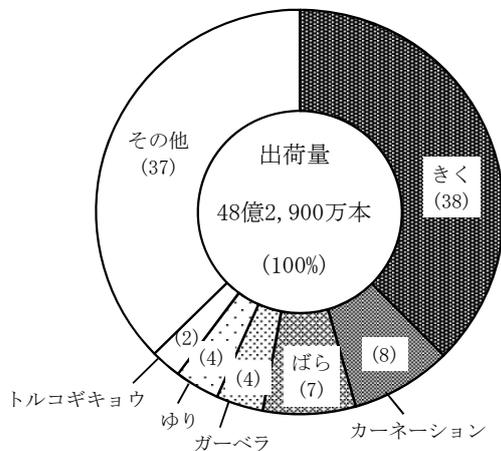


図2 切り花類の作付面積と出荷量の推移

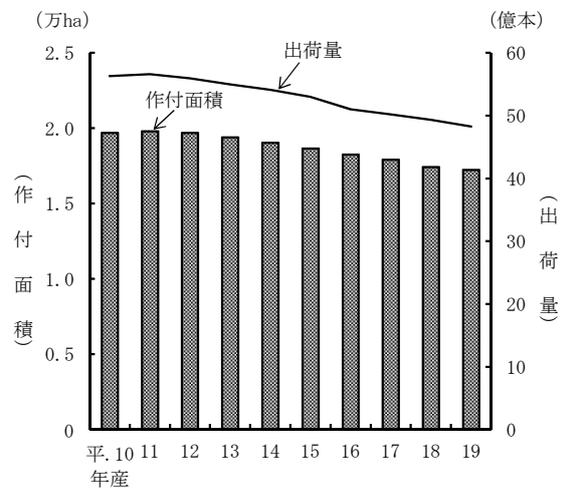


表2 平成19年産切り花類の作付面積及び出荷量

品目	作付面積	出荷量	前年産対比	
			作付面積	出荷量
切り花類	17 230 ha	482 900 万本	99 %	98 %
うち、きく	5 645	181 400	99	98
輪ぎく	3 125	101 100	99	98
スプレイぎく	783	28 160	100	99
小ぎく	1 736	52 200	98	97
カーネーション	410	38 730	94	94
ばら	484	35 540	98	96
宿根かすみそう	272	5 970	94	87
洋ラン類	185	2 260	98	100
スターチス	214	11 780	85	93
ガーベラ	98	18 050	95	99
トルコギキョウ	465	11 750	103	101
ゆり	860	17 030	98	98
アルストロメリア	97	6 790	97	101
切り葉	681	16 560	101	102
切り枝	4 100	25 110	102	102

注：きくの作付面積及び出荷量は、輪ぎく、スプレイぎく及び小ぎくの合計値である。

ア きく

作付面積は5,645haで、鹿児島県等で減少したことから、前年産に比べて55ha（前年産対比1%）減少した。

出荷量は18億1,400万本で、前年産に比べて4,300万本（同2%）減少した。これは、沖縄県、鹿児島県等で梅雨時の多雨により減少したこと等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が29%を占め、次いで沖縄県が17%、鹿児島県が7%となっており、この3県で全国の5割以上を占めている。

また、品目別にみた出荷量の構成割合は、輪ぎくが56%で最も高く、次いで小ぎくが29%、スプレイぎくが16%の順となっている。

品目別の作付面積をみると、スプレイぎくはほぼ横ばい、輪ぎく及び小ぎくは減少した。

図3 きくの都道府県別出荷量割合

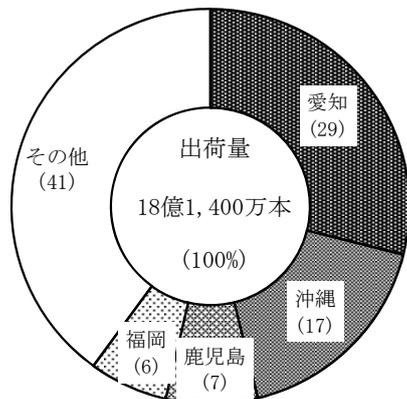


図4 きくの品目別出荷量割合

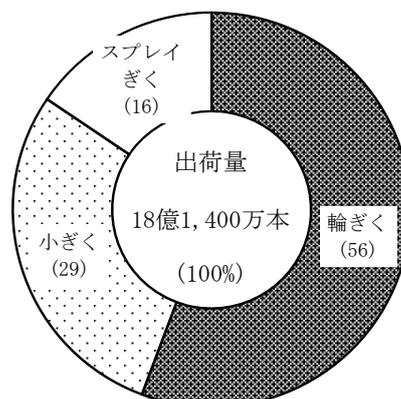


図5 きくの作付面積と出荷量の推移

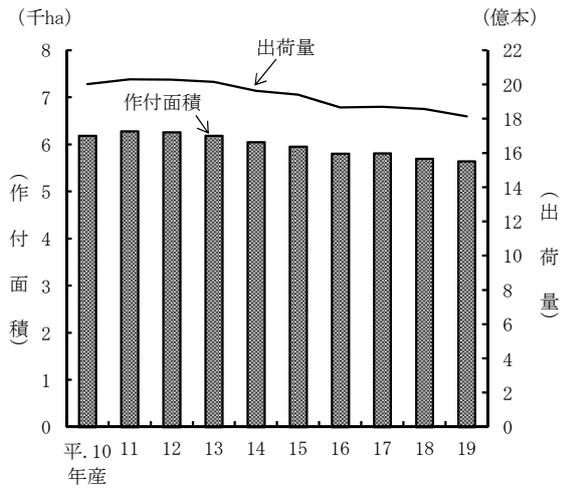


図6 輪ぎくの作付面積と出荷量の推移

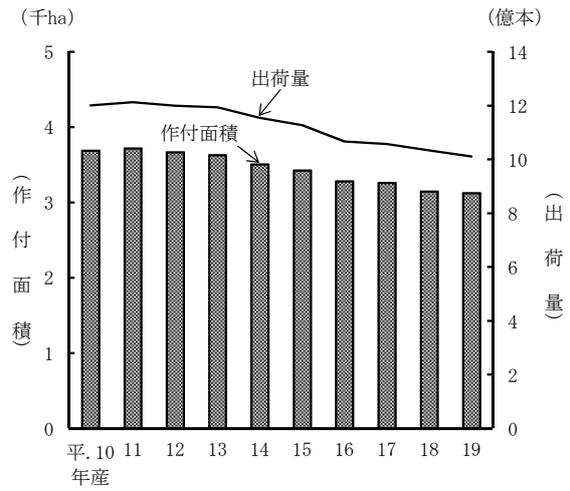


図7 スプレィぎくの作付面積と出荷量の推移

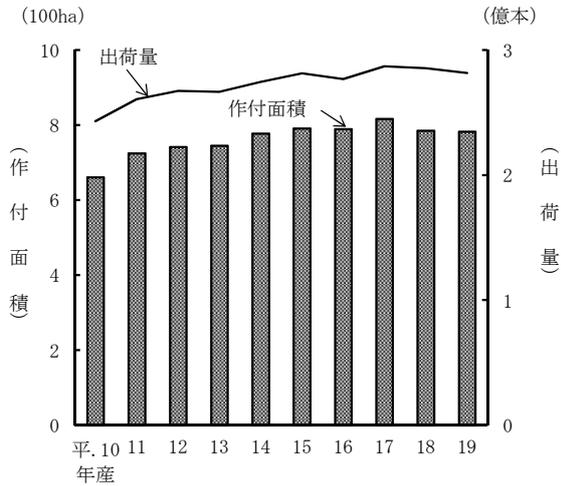
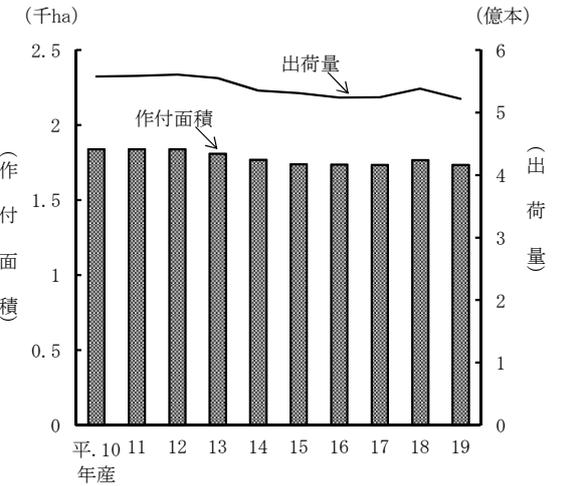


図8 小ぎくの作付面積と出荷量の推移



イ カーネーション

作付面積は410haで、千葉県、長野県等で減少したことから、前年産に比べて24ha（前年産対比6%）減少した。

出荷量は3億8,730万本で、前年産に比べて2,420万本（同6%）減少した。これは、作付面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が18%を占め、次いで愛知県が17%、兵庫県が11%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図9 カーネーションの都道府県別出荷量割合

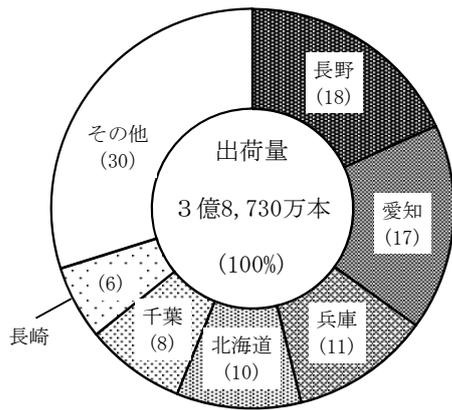
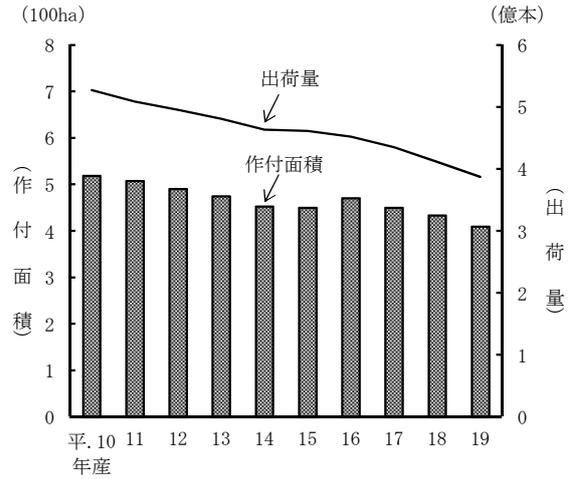


図10 カーネーションの作付面積と出荷量の推移



ウ ばら

作付面積は484haで、福岡県、静岡県等で減少したことから、前年産に比べて10ha（前年産対比2%）減少した。

出荷量は3億5,540万本で、前年産に比べて1,580万本（同4%）減少した。これは、作付面積の減少に加え、愛知県、静岡県等で夏期の高温や虫害により減少したこと等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が15%を占め、次いで静岡県が9%、福岡県と山形県が6%となっており、この4県で全国の約4割を占めている。

図11 ばらの都道府県別出荷量割合

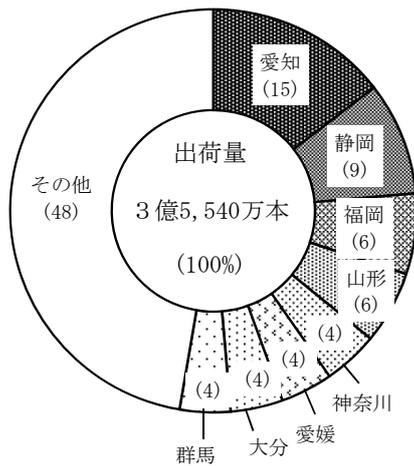
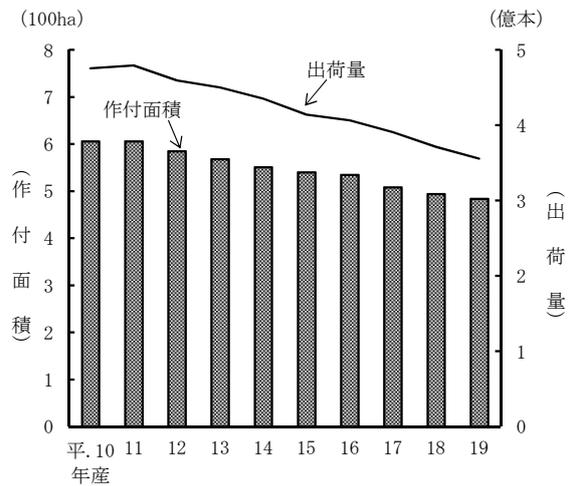


図12 ばらの作付面積と出荷量の推移



エ トルコギキョウ

作付面積は465haで、福岡県等で増加したことから、前年産に比べて15ha（前年産対比3%）増加した。

出荷量は1億1,750万本で、前年産に比べて70万本（同1%）増加した。これは、長野県等で夏期の高温により減少したものの、作付面積が増加したこと等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が12%を占め、次いで熊本県が10%、福岡県が8%となっており、この3県で全国の約3割を占めている。

図13 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合

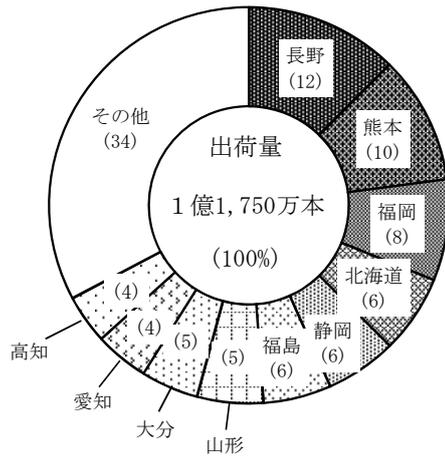
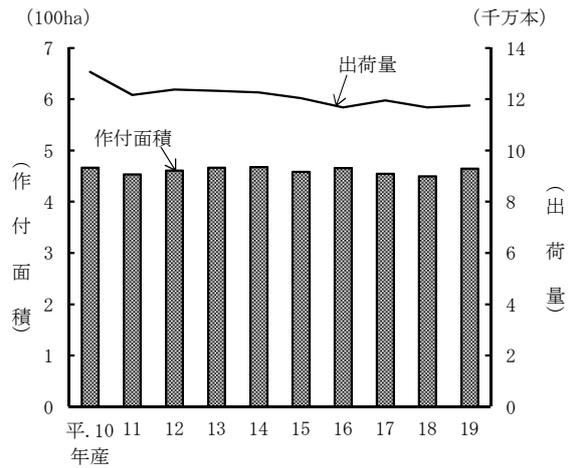


図14 トルコギキョウの作付面積と出荷量の推移



オ ゆり

作付面積は860haで、北海道等で減少したことから、前年産に比べて17ha（同2%）減少した。

出荷量は1億7,030万本で、前年産に比べて320万本（同2%）減少した。これは、作付面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、埼玉県が15%を占め、次いで高知県が12%、新潟県が10%、鹿児島県が8%、千葉県が6%となっており、この5県で全国の5割以上を占めている。

図15 ゆりの都道府県別出荷量割合

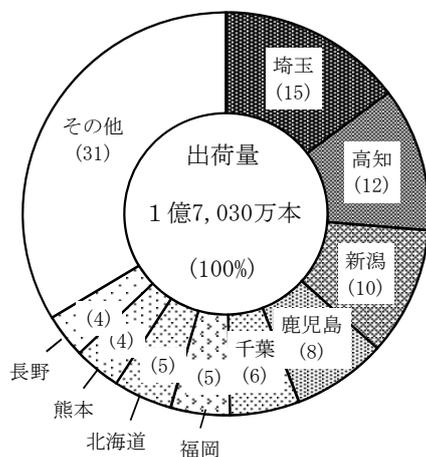
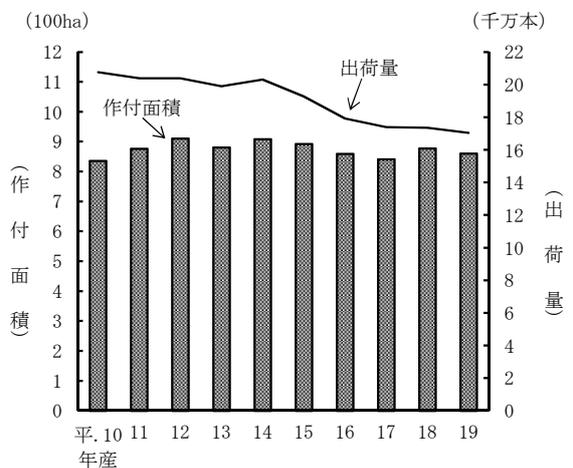


図16 ゆりの作付面積と出荷量の推移



(2) 球根類

収穫面積は564haで、茨城県等で減少したことから、前年産に比べて18ha（前年産対比3%）減少した。

出荷量は1億6,770万球で、前年産に比べて150万球（同1%）増加した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、鹿児島県が24%を占め、次いで新潟県及び富山県が18%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図17 球根類の都道府県別出荷量割合

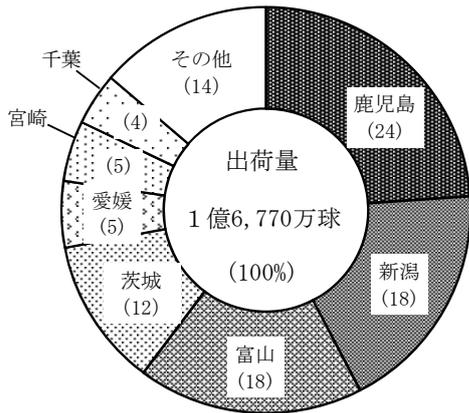
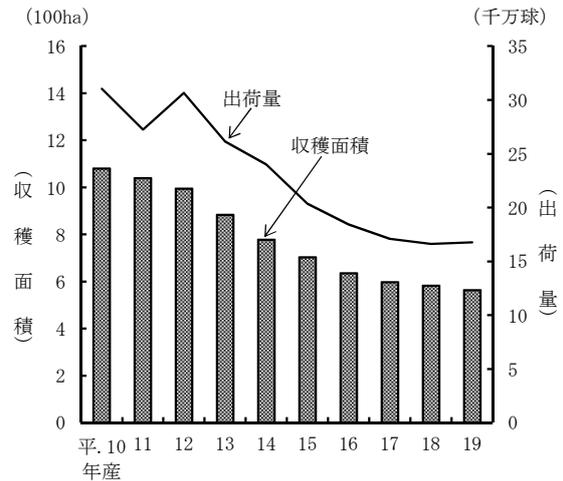


図18 球根類の収穫面積と出荷量の推移



(3) 鉢もの類

収穫面積は2,047haで、前年産に比べて45ha（同2%）減少した。品目別に見ると、花木類、洋ラン類、シクラメンが減少した。

出荷量は2億9,380万鉢で、前年産に比べて720万鉢（同2%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、観葉植物が18%を占め、次いで花木類が17%、シクラメンが8%、洋ラン類が6%となっており、この4品目で全体の約5割を占めている。

表3 平成19年産鉢もの類の収穫面積及び出荷量

品目	収穫面積	出荷量	前年産対比	
			収穫面積	出荷量
鉢もの類	2 047 ha	29 380 万鉢	98 %	98 %
うち、シクラメン	230	2 210	98	98
洋ラン類	265	1 870	97	97
観葉植物	351	5 430	100	98
花木類	439	5 020	95	100

図19 鉢ものの類の品目別出荷量割合

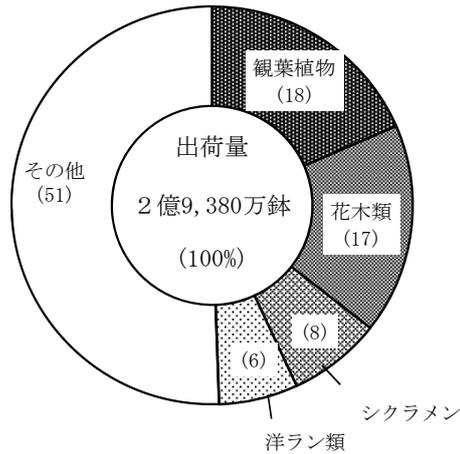
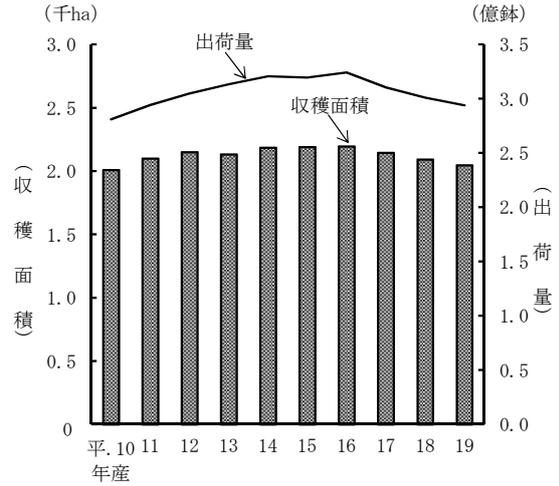


図20 鉢ものの類の収穫面積と出荷量の推移



ア シクラメン

収穫面積は230haで、長野県等で減少したことから、前年産に比べて5 ha（前年産対比2%）減少した。

出荷量は2,210万鉢で、前年産に比べて50万鉢（同2%）減少した。これは、収穫面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県及び長野県が12%を占め、次いで栃木県が6%となっており、この3県で全国の約3割を占めている。

図21 シクラメンの都道府県別出荷量割合

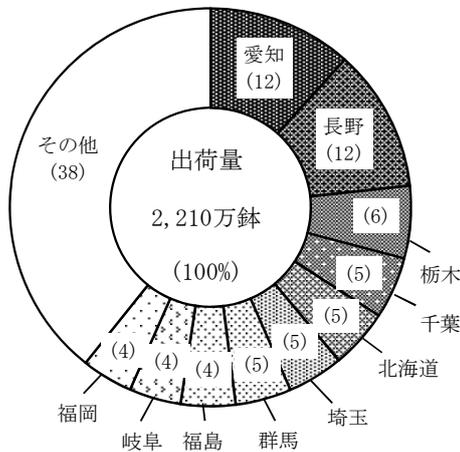
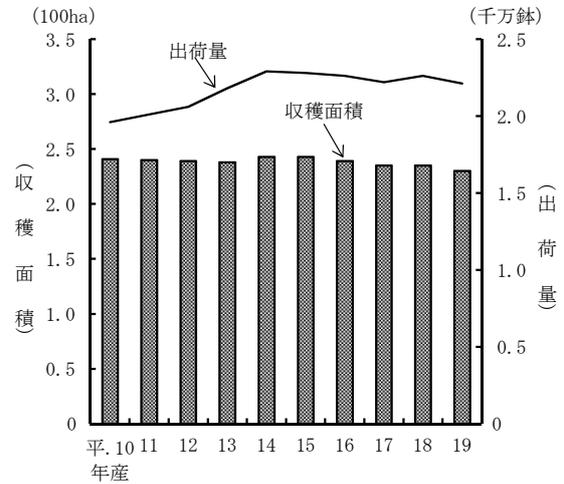


図22 シクラメンの収穫面積と出荷量の推移



イ 洋ラン類

収穫面積は265haで、愛知県等で減少したことから、前年産に比べて7 ha（同3%）減少した。

出荷量は1,870万鉢で、前年産に比べて50万鉢（同3%）減少した。これは収穫面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が28%を占め、次いで福岡県が11%、埼玉県が6%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図23 洋ラン類の都道府県別出荷量割合

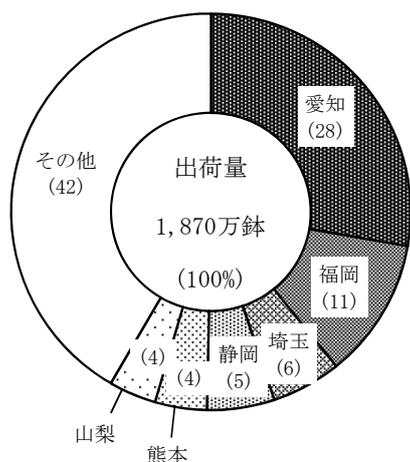
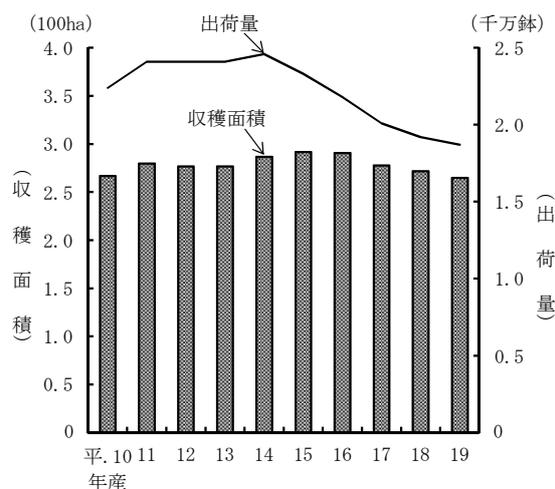


図24 洋ラン類の収穫面積と出荷量の推移



(4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,685haで、前年産に比べて15ha（前年産対比1%）減少した。

出荷量は7億9,210万本で、前年産に比べて1,160万本（同1%）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が9%を占め、次いで千葉県が8%、埼玉県が7%、福岡県及び奈良県が5%となっており、この5県で全体の約3割を占めている。

表4 平成19年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量

品目	作付面積	出荷量	前年産対比	
			作付面積	出荷量
花壇用苗もの類	1,685 ha	79,210 万本	99 %	99 %
うち、パンジー	327	17,800	96	95

図25 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合

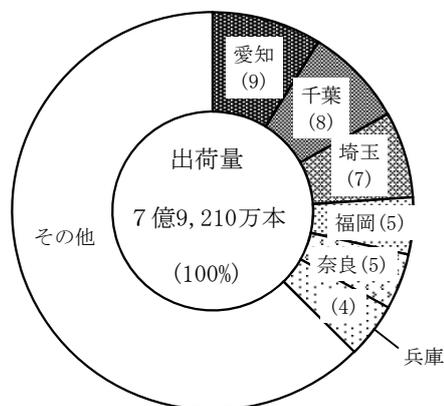
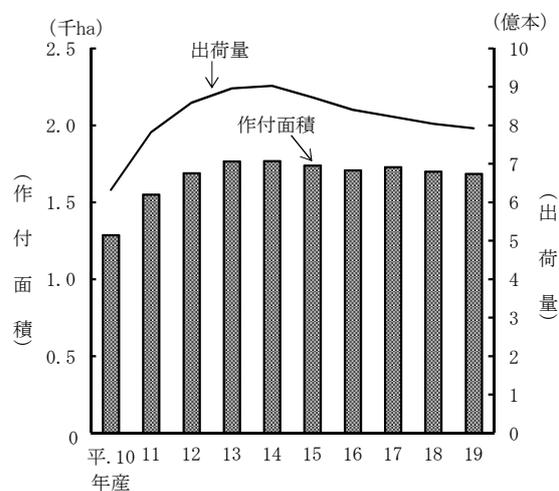


図26 花壇用苗もの類の作付面積と出荷量の推移



ア パンジー

作付面積は327haで、長野県、千葉県等で他の花壇用苗もの類等への転換等があったことから、前年産に比べて15ha（前年産対比4%）減少した。

出荷量は1億7,800万本で、前年産に比べて950万本（同5%）減少した。これは作付面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が8%を占め、次いで千葉県が7%、埼玉県及び奈良県が6%となっており、この4県で全体の約3割を占めている。

図27 パンジーの都道府県別出荷量割合

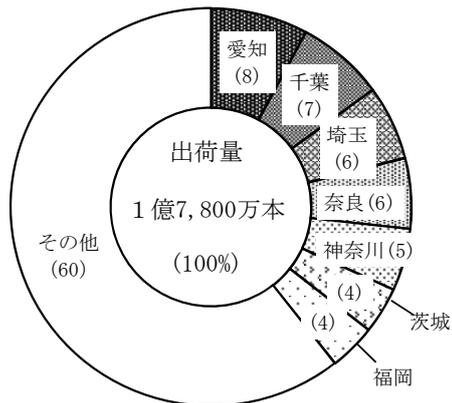


図28 パンジーの作付面積と出荷量の推移

